



2022年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年8月12日

上場会社名 株式会社フィックスターズ 上場取引所 東
 コード番号 3687 URL <https://www.fixstars.com/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 三木聡
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 堀美奈子 TEL 03-6420-0751
 四半期報告書提出予定日 2022年8月12日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年9月期第3四半期の連結業績（2021年10月1日～2022年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年9月期第3四半期	4,609	15.9	1,205	132.4	1,207	137.0	750	170.9
2021年9月期第3四半期	3,975	△6.5	518	△34.1	509	△35.1	277	△44.9

(注) 包括利益 2022年9月期第3四半期 876百万円 (194.6%) 2021年9月期第3四半期 297百万円 (△40.8%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年9月期第3四半期	23.21	—
2021年9月期第3四半期	8.48	8.47

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2022年9月期第3四半期	7,597	4,214	53.2	125.86
2021年9月期	7,396	3,642	47.8	108.68

(参考) 自己資本 2022年9月期第3四半期 4,045百万円 2021年9月期 3,533百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年9月期	—	0.00	—	5.00	5.00
2022年9月期	—	0.00	—		
2022年9月期（予想）				9.00	9.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2022年9月期の連結業績予想（2021年10月1日～2022年9月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	6,300	14.5	1,600	64.7	1,600	66.7	1,000	84.1	30.96

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 ー社（社名）ー、除外 ー社（社名）ー
なお、特定子会社の異動には該当しておりませんが、株式会社Fixstars Amplifyを第1四半期連結会計期間において設立したため、連結の範囲に含めております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2022年9月期3Q	33,635,000株	2021年9月期	33,635,000株
② 期末自己株式数	2022年9月期3Q	1,491,959株	2021年9月期	1,120,459株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2022年9月期3Q	32,341,604株	2021年9月期3Q	32,697,745株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、本資料の発表時点において当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（決算補足説明資料の入手方法について）

決算補足説明資料は、TDnetで同日開示し、当社ウェブサイトに掲載しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(会計方針の変更)	7
(追加情報)	7
(セグメント情報等)	8
(重要な後発事象)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、経済活動の正常化への期待が高まり、景気持ち直しの動きが見られましたが、新型コロナウイルス感染症の再度の感染拡大の懸念、ロシア・ウクライナ情勢の長期化による世界的な資源価格の高騰や各国の金融市場の変動等により、景気先行きは不透明な状況が続いております。

このような経営環境下、当社のソフトウェア開発技術を活用し未来社会の構築に貢献すべく「Speed up your Business」をスローガンに掲げ、コンピュータの性能を最大限に引き出し大量データの高速処理を実現するソフトウェア及びハードウェア等を提供するとともに、これらの知見がより広く社会に活用されることを目指し、新規SaaS事業の展開を行っております。

主力のSolution事業では、自動運転を対象としたアルゴリズム開発や高速化案件、半導体メーカー向けソフトウェア開発案件が長期安定して継続しております。その他においても、高速化サービスに対する旺盛な需要を背景に、日本国内の製造業向け案件を中心として安定的な収益を獲得しております。

SaaS事業においては、量子コンピュータ向けプログラムの開発・実行プラットフォーム「Fixstars Amplify」、AIコードレビュー「Sider」、乳がんAI画像診断支援事業等の開発を進めております。

また、海外においては米国子会社のFixstars Solutions, Inc.が日本のお客様の米国業務の一翼を担う一方、研究機関等を対象とした高速化案件の拡大に取り組んでおります。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は4,609,372千円（前年同期比15.9%増）、営業利益1,205,880千円（前年同期比132.4%増）、経常利益1,207,433千円（前年同期比137.0%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益750,796千円（前年同期比170.9%増）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。なお、以下の数値はセグメント間の取引消去後となっております。

①Solution事業

Semiconductorの分野では、モバイル機器やデータセンタ等で利用の進むNANDフラッシュメモリを対象として、ファームウェア及びデバイスドライバの開発等を行っております。Mobilityの分野では、自動運転を対象としたアルゴリズム開発及び高速化案件や、次世代モビリティに関連する研究開発及び高速化支援を行っております。Life Scienceの分野では医療画像診断装置における高精細画像のリアルタイム処理やゲノム解析、Financeの分野ではリスク計算やHFTの高速化支援、Industrialの分野では産業機器等におけるマシンビジョンシステムの高速化支援等を提供しております。

この結果、売上高は4,453,496千円（前年同期比13.7%増）、セグメント利益（営業利益）は1,430,681千円（前年同期比46.6%増）となりました。

②SaaS事業

各SaaS事業において、将来の収益獲得に向けて積極的な投資・開発を行っております。GENESIS事業において補助金による研究開発を早期終了したことにより、補助金の確定額を第2四半期連結会計期間において計上したことを主な要因として、前年同期比で損失の額が減少しております。

この結果、売上高は155,875千円（前年同期比171.3%増）、セグメント損失（営業損失）は224,800千円（前年同期はセグメント損失（営業損失）457,266千円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(総資産)

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べて201,392千円増加し、7,597,540千円となりました。これは、営業債権の回収等により現金及び預金が100,748千円増加したこと等が主な要因であります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べて370,279千円減少し、3,383,081千円となりました。これは、返済により長期借入金が596,997千円減少したこと等が主な要因であります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べて571,671千円増加し、4,214,458千円となりました。これは自己株式が263,610千円増加した一方で、利益剰余金が596,985千円増加したこと等が主な要因であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年9月期の業績予想につきましては、2021年11月12日付の「2021年9月期 決算短信〔日本基準〕（連結）」で公表いたしました通期の業績予想から変更しております。詳細につきましては、2022年7月20日に公表いたしました「業績予想の修正及び配当予想の修正（増配）に関するお知らせ」をご参照ください。

なお、業績予想は現時点において入手可能な情報に基づき作成しており、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,681,200	4,781,949
電子記録債権	41,723	—
売掛金	1,662,360	1,727,840
契約資産	—	102,514
棚卸資産	9,491	7,776
その他	41,514	68,601
流動資産合計	6,436,290	6,688,681
固定資産		
有形固定資産	452,640	382,622
無形固定資産		
その他	2,411	3,114
無形固定資産合計	2,411	3,114
投資その他の資産		
投資有価証券	47,209	70,629
繰延税金資産	99,653	105,730
敷金及び保証金	357,942	346,762
投資その他の資産合計	504,805	523,122
固定資産合計	959,857	908,859
資産合計	7,396,148	7,597,540
負債の部		
流動負債		
買掛金	156,244	136,548
1年内返済予定の長期借入金	795,996	795,996
契約負債	—	26,928
未払法人税等	206,096	248,026
賞与引当金	54,741	61,200
その他	431,110	619,891
流動負債合計	1,644,189	1,888,590
固定負債		
長期借入金	2,085,010	1,488,013
その他	24,161	6,478
固定負債合計	2,109,171	1,494,491
負債合計	3,753,361	3,383,081
純資産の部		
株主資本		
資本金	554,468	554,468
資本剰余金	477,060	543,917
利益剰余金	3,608,002	4,204,988
自己株式	△1,100,399	△1,364,010
株主資本合計	3,539,131	3,939,363
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△5,415	106,284
その他の包括利益累計額合計	△5,415	106,284
非支配株主持分	109,071	168,810
純資産合計	3,642,787	4,214,458
負債純資産合計	7,396,148	7,597,540

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年10月1日 至 2021年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年10月1日 至 2022年6月30日)
売上高	3,975,475	4,609,372
売上原価	2,360,138	2,318,278
売上総利益	1,615,337	2,291,093
販売費及び一般管理費	1,096,496	1,085,213
営業利益	518,840	1,205,880
営業外収益		
未払配当金除斥益	125	750
受取賃貸料	447	483
助成金収入	332	820
為替差益	—	4,273
その他	73	320
営業外収益合計	979	6,647
営業外費用		
支払利息	6,458	4,755
為替差損	1,842	—
その他	2,038	339
営業外費用合計	10,338	5,094
経常利益	509,481	1,207,433
特別損失		
事務所移転費用	15,096	—
投資有価証券評価損	—	9,300
特別損失合計	15,096	9,300
税金等調整前四半期純利益	494,385	1,198,132
法人税、住民税及び事業税	202,811	443,242
法人税等調整額	15,546	△9,462
法人税等合計	218,358	433,780
四半期純利益	276,027	764,352
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△1,131	13,555
親会社株主に帰属する四半期純利益	277,158	750,796

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年10月1日 至 2021年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年10月1日 至 2022年6月30日)
四半期純利益	276,027	764,352
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	21,315	111,700
その他の包括利益合計	21,315	111,700
四半期包括利益	297,342	876,052
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	298,474	862,496
非支配株主に係る四半期包括利益	△1,131	13,555

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。

これにより、従来、受注制作のソフトウェア開発契約等に関して、工期がごく短いもの及び当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められないものについては工事完成基準を、その他のものについては工事進行基準を適用しておりましたが、第1四半期連結会計期間より、一定の期間にわたり充足される履行義務については、履行義務の充足に係る進捗度を見積り、当該進捗度に基づき一定の期間にわたり収益を認識することといたしました。履行義務の充足に係る進捗度の見積りの方法は、工事原価総額に占める発生原価の割合によるインプット法にて算出しております。なお、収益認識基準適用指針第96項に定める代替的な取扱いを適用し、ソフトウェアの開発・高速化サービスにおいて、契約における取引開始日から完全に履行義務を充足すると見込まれる時点までの期間がごく短い場合には、完全に履行義務を充足した時点で収益を認識しております。

また、主にSolution事業におけるハードウェア販売案件において、本人・代理人の検討の結果、大半の案件について代理人に該当したため、顧客から受け取る額から仕入先に支払う額を控除した純額で収益を認識することとしております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は254,284千円減少、売上原価は276,519千円減少し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ22,235千円増加しております。また、利益剰余金の当期首残高は8,762千円増加しております。

収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「売掛金」は、第1四半期連結会計期間より「売掛金」と「契約資産」に区分して表示しております。また、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動負債」の「その他」に含めて表示していた「前受収益」は、第1四半期連結会計期間より「契約負債」に含めて表示することといたしました。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。

さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第3四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積り)

前事業年度の有価証券報告書に記載した新型コロナウイルス感染症に関する影響等について、重要な変更はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2020年10月1日至2021年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計
	Solution事業	SaaS事業	
売上高			
外部顧客への売上高	3,918,011	57,463	3,975,475
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—
計	3,918,011	57,463	3,975,475
セグメント利益又は損失(△)	976,107	△457,266	518,840

(注) セグメント利益又は損失(△)の合計は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

II 当第3四半期連結累計期間(自2021年10月1日至2022年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計
	Solution事業	SaaS事業	
売上高			
一時点で移転される財	4,117,726	109,339	4,227,065
一定の期間にわたり移転される財	335,769	46,536	382,306
顧客との契約から生じる収益	4,453,496	155,875	4,609,372
その他の収益	—	—	—
外部顧客への売上高	4,453,496	155,875	4,609,372
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—
計	4,453,496	155,875	4,609,372
セグメント利益又は損失(△)	1,430,681	△224,800	1,205,880

(注) セグメント利益又は損失(△)の合計は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。